

ついにシジュウカラ物語の本がでましたが、
シジュウカラガンもハクガンも本格的な研究はこれからですよ(呉地正行)

●シジュウカラガン物語が発行

「雁を十羽獲ると七、八羽」(観文禽譜、1831)を占めたシジュウカラガンは、20世紀初頭に繁殖地の島々に人間が毛皮目的で放したキツネのために、瞬く間に絶滅してしまった。日本雁を保護する会は「シジュウカラガンの群れを復活したい!」その思いを、同じ志を持つ日米口の人々と共有し、国際ネットワークを活かし、40年近い年月をかけて、千島列島から日本へ渡る群れを復活させた。

この本では繁殖地の千島とアリューシャンに放されたキツネがどのようにシジュウカラガンを絶滅の淵へと追いやったのかについて触れている。

次に復活の取り組みが先行していた米国の事例を紹介。その支援を得、ソ連(当時)も含め3国共同で開始した、アジアのシジュウカラガン復活計画について述べている。途中でしばしば壁に突き当たったが、熱い思いが運も味方につけ、5000羽を超える群れの復活へと結びついた。

日本で野生化し、特定外来種に指定された近縁種のオオカナダガンも関連団体と協働し、野外からの除去に成功。限られた生息地の保全・回復のために、農業者と協働し、水田の湿地機能を高める「ふゆみずたんぼ」の普及などを行い、多くのガン類やコウノトリ、トキなどが直面している生息地の保全回復手法も示している。計画当初は「出来っこない、夢物語」と言われたが、諦めずに夢に向かって歩み続ければ、道は必ず開けることをこの本は物語っている。

●今後の課題(シジュウカラガン)

- ・同一亜種の千島とアリューシャンの亜種シジュウカラガンとコマンドール諸島のコシジュウカラガンはどこまで同じで?どのくらい違うのか? => DNAレベルでの解明。
- ・どこで繁殖しているのか?:千島のエカルマ島とその他の繁殖可能性がある島での繁殖生態調査。=>GPS送信機の活用で解明
- ・どのような経路でどこまで渡るのか?:渡りの経路は? ホットスポットは? =>GPS送信機の活用で解明

●アジアのハクガンについて

- ・東京湾を「残雪のように」埋め尽くしていたハクガンはなぜ絶滅し、どのように復活したのか。
=>歴史的分布、絶滅から復元への道のりについて、出版準備中。

●今後の課題(ハクガン)

- ・繁殖地はどこ?/渡りの経路は?/ホットスポットは?/=>GPS送信機の活用
- ・アジアのハクガンと米国のハクガンはどこまで同じで?どのくらい違うのか?
=> DNAレベルでの解明。

●標識・発信機調査のゴールは?

- ・フライウェイのホットスポットの抽出とそこでのモニタリングと保全計画策定
- ・大多数の保護区指定が解除されてしまったカムチャツカの保護区復活への貢献
- ・鳥だけ見ていると鳥は救えない。